

# シオミズツボワムシの培養 図解説明

## 備考 ケースについて

両ケースとも 1リットル以上入るもので フタのあるもの、ワムシネット (7×7cm) (どちらか一方のケース) が出し入れできるもの、両ケースは 約同じ容量が入れば、同じ形でなくてもOKです。

セット場所は 直射日光は避け、できれば 照明も当たらない所がベスト。冬場や あまり暖かくない場所に置く場合は、ケースの底に敷いて温める ピタリ適温がおすすめです。

**PS・培養水中に直接ヒーターをいれて 温める事はできません。**

## 備考 培養水の作り方

培養水とは、ワムシを培養するための薄い海水です。

培養水は 塩素中和剤を使用した水道水に人工海水を混ぜて、比重1.015~1.019に合わせます。

25から30度ぐらいの水温が良いでしょう。

**必ず塩素中和剤を使用した水道水をご使用ください。**

天然海水や水槽の飼育水は培養水には向きません。中に微生物 (バクテリア等) がいるからです。微生物は、ワムシの増殖を阻害し、ワムシが増えない原因の一つです。

また 浄水器などで作られたRO水も培養には向かない場合が報告されています。

**必ずそのままの水道水に塩素中和剤を入れて ご使用ください。**

## ①セットします

**手順①** ケースを二つ用意します。AケースとBケースとします。

両ケースはおおむね同量が入れば、左図のように、同型でなくてもOKです。

Aをワムシを増やす専用ケースとし、

Bを増えたワムシのストックケースと位置づけます。ワムシを使う場合はBケースからのみ 使用するようにします。

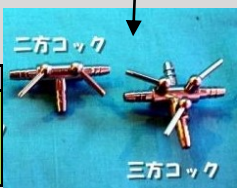
買ったワムシを 図のようにAケースに 約2割

Bケースに約8割ぐらゐに入れ分けます。

**手順②** 両ケースとも ケースの8分目まで、培養水を加えて、ワムシを薄めます。

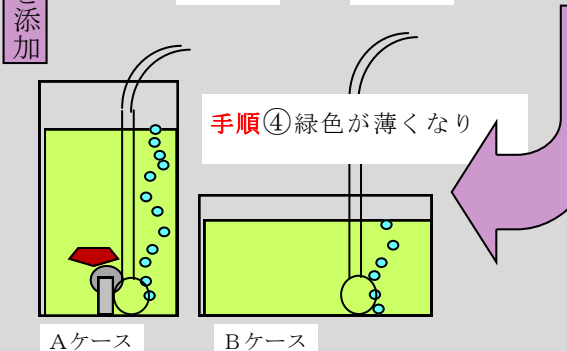
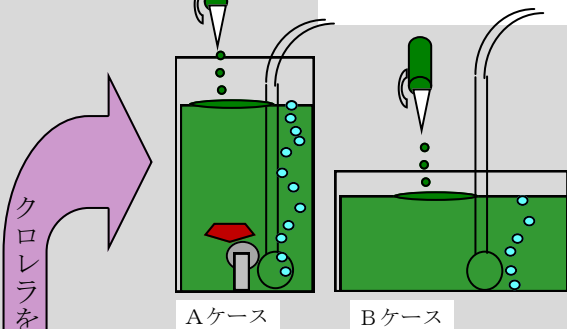
水面が泡立たないように、エアレーションを弱くかけます。

分岐コックを使うと、エアの調整が簡単です。



## ②培養します

**手順③** 両ケースにクロレラを添加します。緑色が増えます。



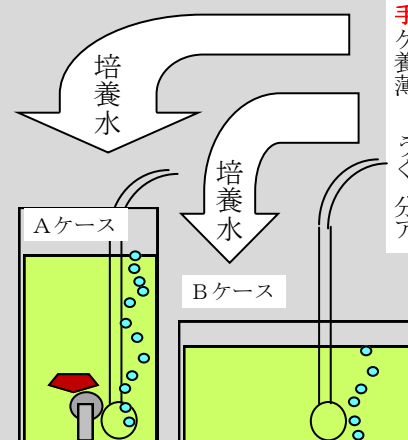
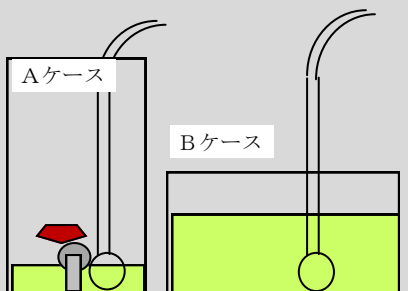
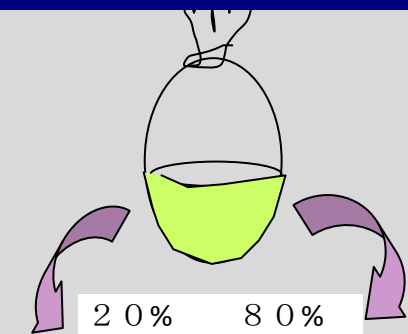
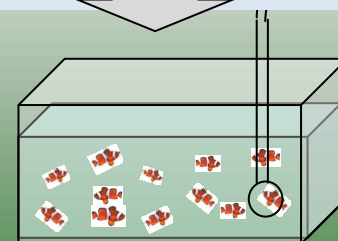
**手順⑤** 手順③と④を数日~2週間繰り返す

**手順⑥** 手順⑤の間 Bケースのワムシは、ワムシネットで掬って、稚魚やサンゴ等の餌に与えてください。

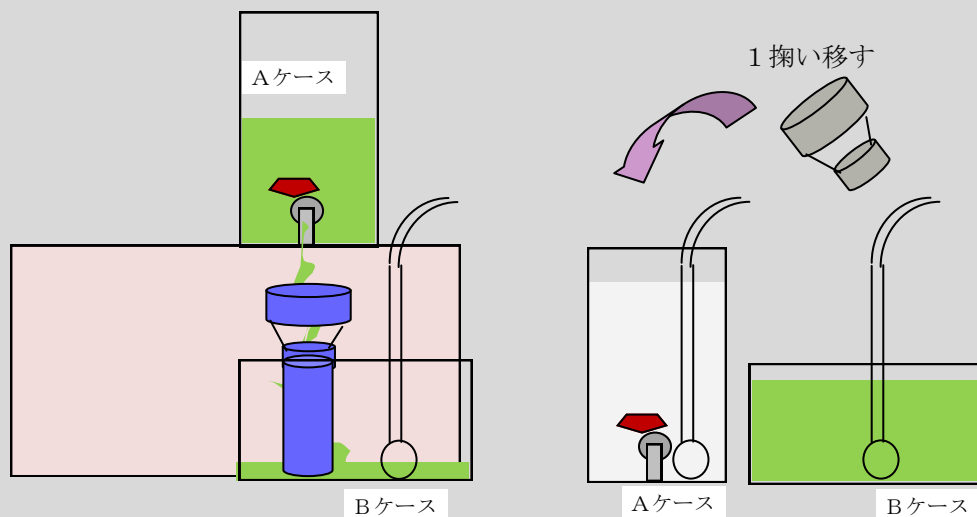
その間 Aケースのワムシはどんどん増えていき、約1~2週間で 飽和状態 (これ以上増えると酸欠になりワムシが死滅し始める状態「200個体以上/1cc」) になります。

そうなる前に、裏の図 手順⑦ のセット替えを行います。

ワムシを与える



### ③セット替えをします



**手順⑦** Bケースを空（残っているワムシは処分する）にしきれいに洗浄します。

AケースのワムシをBケースに移します。

その際、Aケースの壁面等の汚れが入らないようにできるだけ丁寧に行います。

上図のように、コック付のケース等を使用して、台の上などに静かに置き、

ワムシごみ取りネットをくぐらせ移すと、汚れがBケースに入りにくく移すことができます。

**手順⑧** 空になったAケースをきれいに洗浄し、新しく培養水を入れます。

Bケースから、Aケースに、ワムシネットでワムシをひと掬い移します。

以下、手順③からの培養を繰り返します。

### 備考 クロレラの与える量について

クロレラは一日以内で食べ尽くせる（緑が薄くなる）量を与えるのがポイントです。多すぎますと培養水の水質悪化に、少なすぎると餌不足でうまく増えません。

一日でワムシがクロレラを食べ尽くす量とは、今現在のワムシ数によりますからハッキリとした事はいえません。当初 セット後 培養水1リットルあたり 3～6滴与えて見て下さい。そしてどれくらいの時間で培養水の緑色が薄くなるかをチェックします。

通常AケースよりBケースのほうがワムシ濃度が高いため Bケースに 少し多めに添加します。

添加した結果 半日で緑が薄くなれば、本来その2倍のクロレラを入れても1日で薄くなるはずです。クロレラの添加量は このように調整します。

特にAケースのワムシは 使わず増やすだけなので どんどん増えていきます。それに伴い、クロレラの加える量も増やして与えていくのもポイントです。

### 備考 ワムシの濃度のチェック方法 及び 稚魚に与える量について

ワムシの濃度を見るのに、右の写真 ワムシ観察キットがおすすめてです。

200個体/1ccを超えると ワムシの飽和状態となります。

また 稚魚のケース内には、15～30個体/1cc の濃度になるよう ワムシを与えるのが 望ましいです。



### 備考 ワムシの保温について

ワムシは低水温（25度以下）ではあまり増えません。また直接ヒーターをいれても 増えません。ヒーターの横を通過しただけで 熱によりワムシが死ぬからです。

冬場の保温には 右の写真 ピタリ適温が お勧めです。

ピタリ適温はケースの下に敷いて温めます。

